

秋田県土地改良区統合整備検討委員会が開催される



統合整備の推進により、土地改良区の一層の運営基盤の強化を図ることを目的に、統合整備に関する基本方針等を検討する「秋田県土地改良区統合整備検討委員会」が6月に設置された。(委員長:秋田県立大学 長濱健一郎教授、所管:県農林水産部農地整備課)

この委員会の初会合である、第1回土地改良区統合整備検討委員会が、7月19日(木)に秋田地方総合庁舎で開催され、土地改良区の適切な運営のための意見を幅広く求めることが有効との意見が多く、今後、アンケート及び地区別意見交換会を実施することとなった。

【出席委員】

長 濱 健一郎(秋田県立大学生物資源科学部教授)…委員長
 粕加屋 俊 夫(元横手市産業経済部次長)
 由 利 傳(湯沢市中央土地改良区理事長)
 田 中 美智子(秋田県仙南土地改良区事務局長)
 田 畑 政 光(大館市産業部長)
 小 島 武 志(秋田市農林部長)
 水 戸 憲 光(秋田県土地改良事業団体連合会常務理事)…副委員長

【主な意見】

- 地区別意見交換会では、多くの土地改良区に参加してもらうことが大事。初めから「統合整備推進」を掲げるのではなく、土地改良区の適切な運営のための意見を幅広く求め、検討するべき。
- 地域の農業を守っていくためには農業基盤整備が必要。土地改良区の合併は、国や県の大規模な事業に対応するための手段の一つだと考えている。
- どうすれば土地改良区が納得できる形で統合整備を進めることができるのかを検討するのが先決。
- 議論を進めるために「目的」の提示は必要。何に向かっているかを明確にすることで、話し合いからの離脱も防げる。合併ありきでないとすれば、アンケートの表題を含めて再検討が必要。
- アンケートや地区別意見交換会では、土地改良区の役員だけでなく職員の参加も求めてはどうか。
- 幅広く「農地という地域の財産」を守っていくためには、どうしたら良いかということについて意見を求めることが有効。この趣旨に基づきアンケート調査及び地区別意見交換会を実施すべき。

許すな壊国TPP！守ろう地域経済

秋田県民フォーラム

8月10日(木)、秋田市文化会館大ホールにおいて、水土里ネット秋田など県内農林漁業関係団体、消費者団体、商工団体、建設業団体などで構成される「食料・農業・環境を守る秋田県民会議」の主催で、「許すな壊国TPP！ 守ろう地域経済 秋田県民フォーラム」が開かれ、1,000人を超える参加者があった。

フォーラムは、JAあきた北女性部による「そうだったのか、TPP」の寸劇に始まり、主催者を代表しての県JA中央会木村会長の開会挨拶、JA全中小林農政部長による情勢報告、構成団体関係者5人によるリレーメッセージ「私たちはTPP参加に反対します」と続いた。

その後、拓殖大学日本文化研究所の関岡客員による基調講演「TPPが及ぼす食・国民生活への影響」が行われ、最後にTPP参加の断固阻止に向けた強力な運動展開の申し合わせを、満場一致の拍手で確認し、閉会した。

第4回

東北管内耕作放棄地解消事例発表会

9月13日(木)～14日(金)の両日、本県の仙北市を会場に「第4回東北管内耕作放棄地解消事例発表会」が、東北各県から関係者166名が参加のもと開催された。

13日には、仙北市民会館を会場に事例発表が行われたが、発表に先立って、東北農政局農村計画部長、秋田県耕作放棄地対策協議会長、仙北市農業委員会長の挨拶が行われた。この中で、秋田県耕作放棄地対策協議会長(本会黒子専務理事)は、「食料自給率をアップすべきという議論について総論賛成としながら、統一的な実行プログラムを策定できず、未だに先進国中最低のレベルにある。世界の気象変動を原因の一つとする現在の穀物価格高騰は、食料供給システムに変調をもたらしている。私共の取組みは、やがて到来すると考えられる食料危機を念頭に置いて、地域に発生した不作付け農地をもう一度再生させ、二次加工に繋げるという地道な活動である。輸入食品に依存せず、地産地消を進めることが、食料自給率の向上に繋がると考えている」と述べた。

続いて、農林水産省耕作放棄地活用推進室杉原課長補佐の「情報提供」、秋田県立大学長濱教授の「基調講演」、県内で耕作放棄地の再生事業を、積極的に実施している農業生産法人「合同会社大地」の代表者ら、4氏による「事例発表」等が行われた。

14日には、「大地」が本年度から、仙北市玉川ぶな森地区で牧場が廃止され荒廃した農地で、解消面積120haを目標に「菜の花」、「そば」を作付けしている状況を現地視察した。

平成24年度

「21創造運動大賞東北地方選考委員会」が開催される!!

— 本県から水土里ネット仁井田堰が参加 —



8月20日(月)、仙台市(KKRホテル仙台)で「平成24年度21世紀土地改良区創造運動大賞東北地方選考委員会」が開催され、今年度の東北地方大賞並びに中央選考委員会への推薦地区(2地区)が決定した。

大賞の選考方法は、①都道府県水土里ネットによる第一次選考、②農政局ブロック単位による地方大賞並びに中央選考委員会への推薦地区(最大2地区)の決定、③中央選考委員会による21創造運動大賞の審査・決定、となっている。

当日は、東北各県水土里ネットより推薦された6水土里ネットが、それぞれ10分間のプレゼンテーションを行い、その後約10分間、選考委員からの質問に回答するという形式で行われた。本県推薦の水土里ネット仁井田堰(秋田市)は4番目にプレゼンテーションを行い、4名の選考委員から、「耕作放棄地対策」、「農地・水向上対策」の活動組織等と連携した背景及びその効果、今後の運動に対する展開方向などについて質問を受けた。

審査の結果、本県の水土里ネット仁井田堰は、これまで10年間継続実施している「水土里の路ウォーキング in 仁井田堰 walk」を通じた地域資源の発信活動等で、委員から高い評価を得たものの、惜しくも「奨励賞」となり、中央選考委員会へ推薦されなかったが、地元小・中学校、行政機関を始めとする多様な組織との間で他の地区の範となる連携体系が構築されており、地域をコーディネートする水土里ネットとして、今後も、新たな視点での運動展開を含めた活動が期待されている。



東北地方選考委員会選考結果

- **地方大賞** 水土里ネット大倉川（宮城県）、水土里ネット矢吹原（福島県）
- **奨励賞** 水土里ネット五所川原市南部（青森県）、水土里ネット須川（岩手県）
水土里ネット仁井田堰（秋田県）、水土里ネット白鷹町（山形県）

21世紀土地改良区創造運動

県内の活動事例

水土里レポーター：水土里ネット雄物川筋 吉田一則



① 皆瀬川に鮎の稚魚を放流 in 皆瀬頭首工

6月12日（日）、秋田県横手市立増田小学校1年生児童（48人）による鮎の稚魚の放流が、皆瀬頭首工で行われました。

この活動は、学校近くを流れる皆瀬川に、鮎の稚魚の放流を通して自然環境の大切さや、生物の尊さを感じてもらおう事を目的としており、地元漁業協同組合や関係機関の協力を得て、今年で3年目を迎えます。

児童一人ひとりに稚魚の入ったバケツが手渡されると、バケツの中で元気良く飛び跳ねる稚魚に驚きながら、体長約10cmに育った鮎（約7千匹）を代わるがわるの交替で放流しました。

放流後、児童たちは川に向かって「元気に育ってね！」「美味しくなってね！」など思い思いの声援を送っていました。

その後、皆瀬頭首工の施設見学会も行われ、管理棟内に展示してある頭首工周辺で捕獲された昆虫の標本を興味津々に観察していました。

入学してから初めての野外学習となったこの活動は、子供たちにとって良い思い出になったと思います。





② 皆瀬1号幹線用水路(緑化活動) ～商店街を花いっぱい～

秋田県横手市十文字町の商店街沿いを流れる、皆瀬1号幹線用水路の水路敷地を活用した花の植栽が、7月5日(木)に行われました。

この植栽活動は、商店街を縦断している危険でもあった用水路が、国営事業を期に開水路から暗渠水路に改修されたものの、少し寂しげな商店街を花の力で明るくしようと、「十文字歩道の美化を考える会」が主催となり実施しているもので、今年で4年目を迎えます。

当日は、小雨が降るあいにくの空模様でしたが、地域住民や関係機関から72人に参加していただき、幅2.4m・長さ223mにわたり、6種類、約3,000株が一株一株丁寧に植えられました。

この花は、11月の雪が降る直前まで咲きほこり、道行く人を楽しませてくれることでしょう。



平成24年度「職員研修会」を開催!!

■秋田県土地改良事業団体職員会が研修会を開催!!

8月31日(金)、秋田県土地改良事業団体職員会(会長鈴木英弘)主催による「平成24年度職員研修会」が、まだまだ残暑の厳しい中、能代市を会場に実施され、県内土地改良区の職員約70名が参加した。

この研修会は、各職員の資質の向上を図るとともに親睦の輪を広げようと毎年企画されているもので、今回は能代市を訪れ、初めて視察研修のスタイルで実施された。

研修では、初めにJAXA(能代ロケット実験場)を訪れ主な実験施設を視察したほか、東北電力能代火力発電所では、室温50℃にもなる操作室で汗だくになりながら説明を受けた。午後は、県内唯一の野菜専門の農業生産法人「有限会社大和農園」を視察し、炎天下の中、農園まで徒歩で移動し、生き生きと育つ野菜の成育状況などを視察し、砂丘畑での栽培方法などについて説明を受けた。

参加者は、暑い中ではあったが普段訪れることがない施設の視察を行ったり、特徴ある野菜栽培方法を目にして、普段直接的には接することがない幅広い分野の見識を習得していた。

